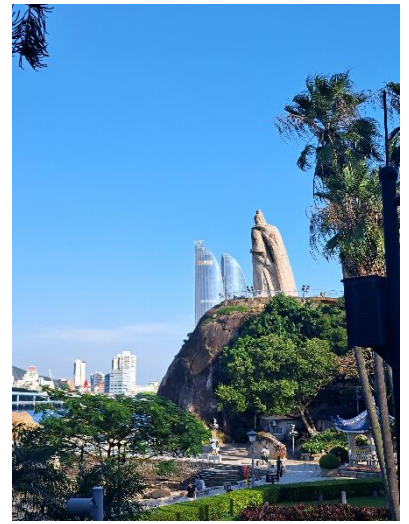


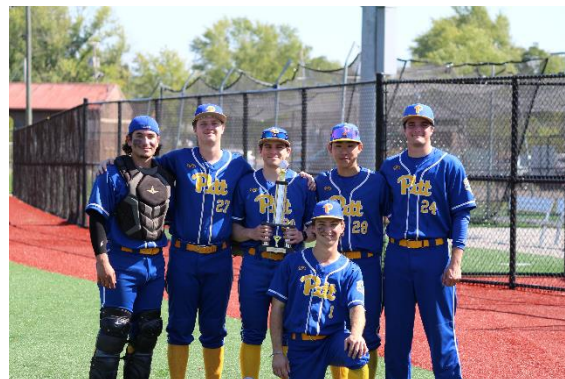
Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



2024 FALL 発行

留学中のみんなから、中間レポートが届きました!



外国留学中間レポート 2024 FALL

目次

イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校 (アメリカ)	3
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年.....	3
ニューヨーク州立大学 バッファロー校 (アメリカ)	5
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年.....	5
ピッツバーグ大学 (アメリカ)	6
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年.....	6
ウィーバー州立大学 (アメリカ)	7
経済学部経済学科 3年.....	7
ウィーバー州立大学 (アメリカ)	8
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	8
ウィーバー州立大学 (アメリカ)	9
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年.....	9
ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム (アメリカ)	10
経済学部 経済学科 4年.....	10
ビクトリア大学 (カナダ)	11
経営学部経営学科 3年.....	11
ビクトリア大学 (カナダ)	12
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	12
カールトン大学 (カナダ)	14
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年.....	14
リーズ大学 (イギリス)	15
人文科学研究科英語英米文学専攻 2年.....	15
リーズ大学 (イギリス)	16
人文科学研究科英語英米文学専攻 1年.....	16

リーズ大学（イギリス）	17
経済学部経済学科 3年	17
リーズ大学（イギリス）	18
経済学部経済学科 3年	18
リヨン第三大学（フランス）	19
文学部英語英米文学科 3年	19
漢陽大学（韓国）	20
経済学部経済学科 4年	20
東義大学（韓国）	21
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	21
北京郵電大学（中国）	22
文学部日本語日本学科 2年	22
厦門大学（中国）	23
経営学部経営学科 3年	23
厦門大学（中国）	24
経済学部経済学科 2年	24
厦門大学（中国）	26
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年	26
厦門大学（中国）	27
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年	27
アーダーネータシティ大学（フィリピン）	28
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年	28

イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年5月

8月18日、まず飛行機の中で隣が外国人（恐らくアメリカ人）であった。とても親切な方でトイレに行きたくなったときや他に頼みごとをすると“Sure”と答えてくれて、こういう風に使うのかと新しい単語を一つ習得した。初めてアメリカ本土に足を踏み入れ、訪れた町はシアトルだ（留学先はシカゴがあるイリノイ州）。わずか12時間程の滞在であったが、アメリカらしさを感じる事ができた。先ず、困ったことは電車の乗り方がわからなかったこと。幸いスマートフォンで乗車することができたが、日本と異なり切符を改札に通す感じではない。続いてバスの乗り方もマスターした。こちらも同様にスマートフォンで決済出来た。バスの降り方も日本とは勝手が違う。次止まりますボタンが無く、周りの人を観察していると紐を引っ張って知らせるのだと学んだ。そうこうして私は航空博物館に到着する事ができた。映画「トップガン」に出てくるトムキャットもあれば、とても大きな旅客機まであった。アポロなどの宇宙産業についてや、世界大戦についての展示もあるなど見どころが満載だった。一番、嬉しかったのは超音速旅客機コンコルドの実物を間近で見ることができ、その独特な中身も見学できた事だ。空港に戻る途中はまさに非日常の連続という感じで、バスの隣に雷が落ちたり、何故か駅のエスカレーターが止まっていたり、バス停に少し怖そうな人が何か一人で話をしていたり、国内線ターミナルにいる多様な人種と飛び交う英語のおかげで、アメリカを実感していた。

そろそろ留学先について記述したいと思う（ここからがメインポイント）。私が留学の1か月目に感じたこと、考えたことを3つ挙げたい。1つめは甲南大学に来ている交換留学生について、次にイリノイ大学への交換留学をお勧めする理由、最後に留学先での生活について記す。



私は留学前に甲南大学に来てくれている交換留学生ともっと関わっておけばよかったと感じた。実は、留学前に国際交流センターでイリノイ大学からきている交換留学生を紹介して貰い、連絡先を交換していた。しかし日本にいたときに、彼と交流したのはその日を含めてたったの2回、合計30分程度しかなかった。それなのに私がイリノイ大学に到着したことを彼に伝えると、友達との食事に誘ってくれたり、旅行を企画してくれたり、色々助けて貰っている。留学すると交流の機会が沢山あり、新しいことにも挑戦する機会も多いが、頼りになる現地の友人がいる事は物凄くアドバンテージであると思う。それを考えると私も日本で留学生ともっと関わって力になれば良かったなと心から感じた。



イリノイ大学への交換留学をおすすめする理由。イリノイ大学は甲南大学の最も古い協定校であると留学ガイドブックに書いてあるが、それだけではいまいちピンとこないのではないだろうか。私は英語が学部の中でも得意な方だと思っていたが、イリノイ大学の応募基準を超えることは楽ではなかった。国際交流センターでエールを貰い、一か八かで何とかクリアした。志望理由は「将来世界を舞台に仕事をする」ことという曖昧なものであった。イリノイ

大学では沢山の地域から来ている学生に会うことができる。それだけではなく特にアメリカ人は親族に様々なルーツを持つ人がいる。多様性という意味では日本とは桁が違い、交流していく中で国際人は単に英語が話せるだけではないと考えるに至った。学費についても考えた。アメリカの学費は高いと言われているがそれはなにも物価だけのせいではない。トイレの綺麗さは別にすると、設備面では町のスポーツセンターレベルの建物がキャンパスにいくつもあり、無料で使うことができたり、街のバスに学生は無料で乗ることができたりする。授業もありとあらゆる分野を履修することができ、レベルも様々な選ぶことができる。イベントも常に行われている。つまりそれだけ価値が高いという事だ。交換留学生は授業料が通常の学生よりも安く済むこともあり、かつ幅広い授業を受け、大勢の外国人と交流もできる。こういった設備・環境の充実という側面においてイリノイ大学はとても良い留学先だと感じている。

最後に、こちらでの生活は決して悪くはない、むしろ良いはずではあるのだが、日本での暮らしは非常に便利で快適だという事をお知らせしたい。大阪や神戸に行けばたくさんのお店があり、衣服も沢山の選択肢の中から自分のこだわりの物を買うことができるだろう。しかし、こちらではそうではない。例えば、シャープペンシルの芯はこちらでは徒歩30分圏内に3種類しか見つけられなかった。岡本であればコンビニや生協、商店街などで最低5種類は見つける事ができると思う。一番顕著なのは食事である。日本の食べ放題の動画を検索してしまうと、スーパーのお惣菜（特にお寿司）が恋しくなるのは間違いないがそれは叶わぬ夢である。あともう一つだけ私見を述べさせて欲しい。学生寮は交流も大切だと感じ、2人部屋を選択していたが、学生との交流機会は他にも沢山あり、特に睡眠の質という側面において個室を選択することは長期の留学で健康的な生活を維持する上で重要な要素だという事は頭に入れておいて損はないと思う。

ニューヨーク州立大学 バッファロー校（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年5月



留学先であるアメリカに着いた時に、私が感じたのは「着いてしまった。これから英語漬けの日々を過ごすのか。」ということで、不安な気持ちでいっぱいでしたが、そんな私でもこの中間報告を書いている今、すごく充実した毎日を過ごすことができます。渡米後、授業が始まるまでには留学生のためにオリエンテーションが用意されています。そこではたくさんの国からの留学生がおり、話しかけるとすぐに友達を作ることができました。とにかくインスタグラム

を交換して、いざという時に助けてもらえる頼みの綱を作っていました。これは留学生活では大切なことで、実際に連絡先を交換したことは私を何度か助けてくれました。UBでは授業が始まるまでに学生証の手続きやミールプランの登録など、しなくてはいけないことが多かったので、初めの1週間はすごく忙しかったです。授業が始まると、アメリカの学生はかなり積極的に意見を持ち、教授が講義を行なっている間にも手を挙げて発言します。これは日本では珍しい授業の進め方で、それが渡米後初めてのカルチャーショックでした。英語力が足りず、授業について行くのに苦労していますが、授業後にTAに相談することもできますし、学ぶ姿勢さえあれば、どうにでもなります。

UBには様々なサークルやクラブ活動がありますが、私は水泳部や日本文化サークル、また国際学生の組織に入ることにしました。英語以外に好きなことや趣味があると、留学生活をより楽しくできると実感しました。UBでは、初心者から上級者まで、様々なスポーツを広い範囲で楽しめると思います。実際に私も水泳で身体づくりができ、同じ趣味を持つ友達もできたので、サークルやクラブに参加することは、活動や交友の輪を広げる良いきっかけだと思います。

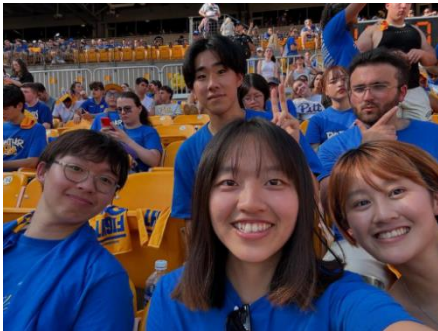


アメリカに来て日本と最も異なることは、“主体的であること”の重要性です。サークルやクラブ活動、また授業もそうですが、自らアクセス方法を探し、話を聞きに行くなど、積極的に行動しない限りは何も起きないということです。やる気に満ち溢れた学生たちばかりだからこそ、受け身していると埋もれて行くように感じました。日本から来た留学生だと胸を張って言えるように今後も自分から行動をしていきたいと思っています。

ピッツバーグ大学（アメリカ）

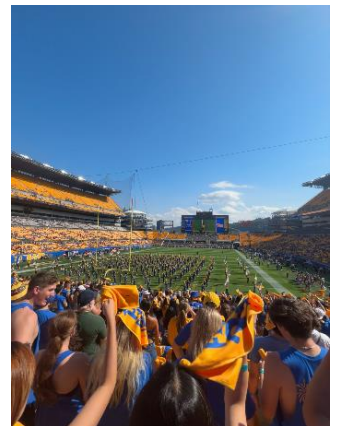
マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月

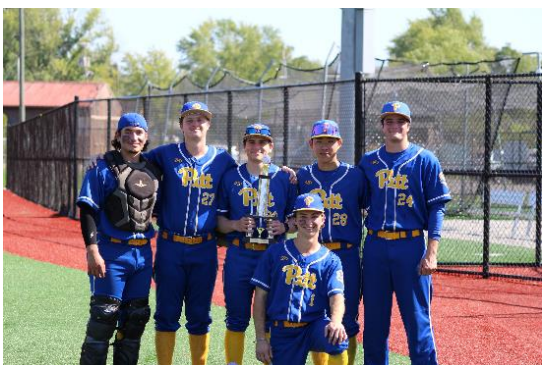


私がピッツバーグに来てから、早くも2ヶ月が経ちました。前年度には甲南大学からピッツバーグ大学への交換留学生はおらず、はじめは情報の収集に苦労しました。しかし、Pitt in Japanのイベントに参加したりサポーターをしていたおかげで、そこでできたピッツバーグ大学の友達が、現地の情報を教えてくれて、ピッツバーグに来てからも様々なサポートをしてくれました。

また、Welcome Weekでは多くの友達ができ、そこでできた友達の紹介から、今でもよく新しい友達ができます。また、週末にはその友達らとバレーボールをしたり、アメフトなど大学の運動部の試合を観戦して楽しく過ごしています。こうした授業外でも、友達と話すことで、日本では学ぶことのできないようなスラングやフレーズを知ることができるので、何気ない会話から学習することができます。また、こちらには日本人があまりおらず、少し孤独感を感じることもありますが、日本語を学ぶ学生やJSA(Japanese Student Association)のイベントで、異文化交流をしながら日本に興味のある現地学生と話すことで、孤独感をまぎらわすことができます。



学業面では、英語クラスとRace & Ethnicityという社会学の講義を履修しています。この講義では、毎週アメリカの歴史に基づいた人種の問題に関する論文を読み、そのレポートがあります。文中には多くの専門用語があり、1ページ読むだけでもかなりの時間と労力を使い、とても大変です。そのため、予習は必須で、夜遅くまで起きている日も多いです。また、こちらの学生の学習に対する向き合い方に衝撃を受けました。どれだけ履修者が多くても授業では積極的に発言や質問をしており、授業外でも隙間時間があれば、スマホのアプリを使って勉強をしたり、どの時間でもキャンパスのいたる所で勉強をしている学生が多くいます。



また、私は甲南大学で硬式野球部に所属していますが、こちらでもスポーツで現地学生と協働するという経験をしたかったので、Club Baseball at Pittというもののトライアウトを受け、入部しています。早速、9月から練習や試合にも参加して、スポーツを通じて様々な経験をしながら、こちらでも文武両道をめざしています。また、ウェストバージニア州での大会では優勝することができ、さらには春にフロリダ州への合宿も予定しており、貴重な経験ができています。

ウイバー州立大学（アメリカ）

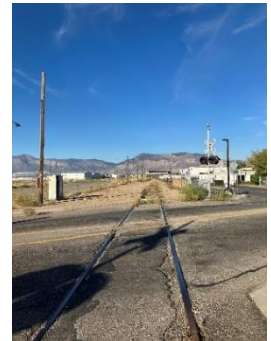
経済学部経済学科 3年

【ダブルディグリープログラム】留学期間：2024年8月～2026年4月



留学をしてから1ヶ月以上が経ちました。ウイバー州立大学に来た時は右左も分からず焦っていましたが、ユタ州には優しい人がたくさんいるため色々なことを教えていただきました。授業中でも分からないことがあれば隣に座っている人がしゃべりかけてきて教えてくれます。ジムで筋肉トレーニングをしていても誰かが話しかけてくれます。そのため、色々な人と繋がりを持つことが簡単にできました。

寮に入ってから苦労したことはルームメイトと仲良く過ごせるかどうかでした。実際、数日後に入寮してきたのが背の高い黒人の方だったので驚きました。そして、お互い何もしゃべらず1週間が経っていたので私は少し焦りました。しかし、自分が持っているロサンゼルス・エンゼルス・エンゼルス・エンゼルの布団が仲良くなるきっかけを作りました。彼は、大谷選手のファンだったので共通の趣味で互いに仲良くなっていきました。ユタ州出身なので車を持っており、乗せてもらってスーパーマーケットに連れて行ってくれたりしました。アジア人ならオーシャンマートに行くべきだとオススメのスポットなども教えてくれました。



アメリカの文化を一番感じられるのはアメリカンフットボールだとアメリカ人のクラスメイトが授業中に教えてくれたのでキャンパスで開催されるフットボールゲームに留学説明会で出会った友達と参加しようと考えました。試合会場への入場料は、ウイバー州立大学出身者は全員無料で参加できるということでした。試合はたくさんの人で賑わっており、日本とは違い、すごい人気を誇っていることに気づかされました。応援する人の中には、上半身の服を脱いで踊ったりする人がいたり、ウイバー州立大学のシンボルカラーである紫の服を着ている人も多かったです。アメリカンフットボールのルールは全然わからなかったので、試合の流れを見てなんとか理解できるようにしようとしました。観戦者はみんな味方のチームが前に進むにつれて拍手をしていました。そして、最後の方のラインを踏んだら大喜びしていたので前に進むことが重要だとわかりました。



ウィーバー州立大学（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

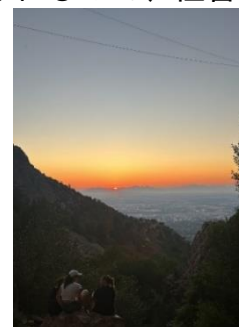
【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月



私が留学しているウィーバー州立大学は、大自然に囲まれた環境にあります。キャンプ、ハイキング、ロッククライミングなど、アウトドアアクティビティが非常に充実しており、冬にはスノーボードが定番のようです。留学生へのサポートも手厚く、私の場合は交換留学生専用の授業を通じてまず友達を作ることができました。この授業では、留学生向けのイベントも開催され、ショッピングセンターへのバスツアーや、ビデオゲームを一緒に楽しんだり、季節ごとのイベントを体験したりできます！ロッククライミングにも連れて行ってもらいました。最初から自分から外の環境に飛び出すにはなかなか勇気がいりますが、授業を通じて体験するチャンスを得られたのはとても良かったです。

まだまだ英語が不十分な私ですが、最初に話しかけてくれた留学生が交流の輪に入れてくれたおかげで、たくさんの友達を作ることができました。困ったときは友達が助けてくれます！大学ではバスパスが無料で発行されるので、外出時にはバスを無料で利用できます。このパスの発行も友達が手伝ってくれました。他にも、初めての夕食や買い物にも付き合ってくれて、本当に助かりました。さらに、学内外の情報も共有してくれるので、友達の存在はまさに神です。早めに友達を作ることをお勧めします。また、辛いときには友達だけでなく、相談カウンターにいる先輩（留学生）にも頼ることができます。

留学生といっても、他の学生は英語圏出身で、基本的に私よりも語学力が高いことが多いです。会話にうまく入れないこともあれば、半分くらいしか理解できないときもありますが、そういうときは流れに身を任せましょう。落ち込む必要はありません。日常茶飯事だからです。個人的には、英語圏の学生と話すときはグループよりも1対1の方が話しやすいです。そもそも、英語が得意でない私と話してくれる時点で、相手が親切だということが確定しています。相手は分かりやすい英語で話してくれますし、私も分からない部分があればその都度質問しています。みんな親切に教えてくれるので、性善説を信じそうになります。フレンドリーな人も多く、例えば「友達に似ている」という理由で知り合った現地の学生がいて、それ以来見かけるたびに声をかけてくれます。すれ違ったときにお気に入りの曲を紹介してもらったこともあります。しかし、変な人もいたので自衛は大切です。話しかけられたくないときはイヤフォンをつけるのが効果的です。私自身、1人の時間も大切にしているので、無理のない範囲で交流を楽しんでいます。また、気乗りしないときは断ったほうが良いとルームメイトに教わり、そのおかげで心身ともに健康に過ごせています。

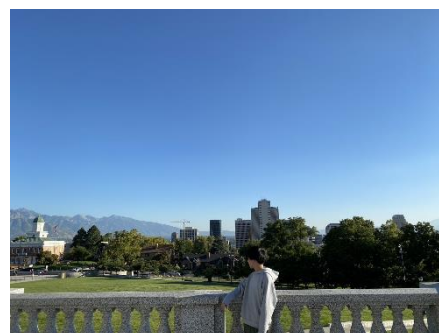


ウイバー州立大学（アメリカ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年4月

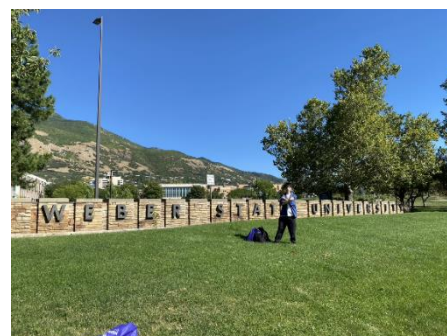
高校生のころ、コロナで留学に行けなくなったことで、大学では必ず留学したいという思いから、多民族が集まるアメリカで異文化交流・語学力向上を目的としてウイバー州立大学を選択しました。



フォールセメスターが始まってから1ヶ月半が経ち、アメリカに到着した時と比べこちらの暮らしには慣れてきたように感じます。到着してすぐの時は、スーパーの店員の方に話しかけられてもどこから来たのか、何をしに来たのかなどの簡単な質問にしか答えられず、質問をしようとしても言葉が詰まってうまく伝わらなかったです。それに加え、挨拶の自然な返し方がわからなかったのを覚えています。このような調子で授業が受けられるのかなと不安に感じたのですが、ウイバー州立大学は多くの留学生を受け入れているため教授も留学生の対応に慣れているように感じました。そのおかげで非常に安心して授業を受けることができます。しかし、学生は慣れているわけではないためクラスの中で友達を作ることが難しかったです。それでも、クラスメートと顔が会うたびに話しかけ、挨拶をしていたら名前を覚えてくれました。そのころには、僕がたまに聞き取れないことも理解してくれていて何度聞いても笑顔で答えてくれました。今ではアメリカの学生とクラスで決められたテーマでならディスカッションをしても話せるようになり、短期間で大きく成長したと感じました。それでも、人によっては訛りや早口、難しい単語があるためそれらを聞いたときは何を話されているのか全く分からなくなることがあり、練習と勉強の継続が必要です。



授業後や休日はeスポーツクラブでゲームをしたり、ロッククライミングや観光などのアクティビティがあったりと退屈な日は一日もないです。eスポーツクラブの仲間経由で日本人の先輩とも会うことができたため、おすすめのスーパースーパーやレストラン、バスの無料チケットまで教えていただくことができ心配なく過ごせています。この1か月は、英語の実践、趣味、勇気が留学において大切だと気付くことができました。これからは授業の試験や長期休み、アクティビティや行ってみたい場所があるため退屈することなく異文化交流を楽しみたいと思います。



ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）

経済学部 経済学科 4年

【奨励留学】留学期間：2024年8月～2025年1月

アメリカに来てから早くも約1ヵ月半が経ちました。私は現在フロリダにある Walt Disney World の Hollywood Studios にある Sunset という飲食店で週5日働いています。Sunset はこのパークで最も大きな飲食店でアイス・ピザ・ハンバーガー・アルコール飲料など様々な商品を5店舗に分けて販売しています。私はこの5店舗の中を一日に何度もジョブローテーションしながら様々なポジションで働いています。また、仕事がない2日はバレンシア大学の授業で Business Management と Leadership について学んでいます。休みなく続く日々疲れを感じる日もありますが少しずつこの生活にも慣れ、仕事前に職場の友人と出かけたり、同じプログラムの日本人の友人と出かけたりする余裕が出てきました。未だに慣れない文化や価値観の違いに戸惑う瞬間もたくさんありますが、自分なりにこの5ヵ月を精一杯走り抜き、実りのあるものにしようと毎日様々なことに挑戦しながら頑張っていこうと思っています。



メインである Sunset での仕事は毎日できない事、知らない事が沢山あり、しんどいと感じることもあります。日本語なら上手く説明できるのに、英語だと上手く伝わらないというもどかしさも毎日感じます。しかし最近では自分ができることも少しずつ増え、同僚と話す余裕も出てきました。同僚と話するときもまだまだ流暢に英語を話せるわけではありませんが、この1ヵ月で確実にリスニング力はついたと実感することができます。周りに沢山迷惑をかけながらですが、色々なことを吸収しながら日々成長しています。

寮では Welcome パーティーやキャラクターグリーティング、Fall Festival など様々なイベントが行われていたり、ディズニーの裏側が見られるバックステージツアーや Universal Orlando への旅行の企画などがあります。それらのイベントは仕事前や授業前でも参加できるので、毎週とても楽しみにしています。寮の部屋はアメリカ人と日本人の4人部屋で、各々仕事があるので話す機会は少ないですが、リビングで会った時はその日の予定や仕事の話をしてもらいます。残り2ヵ月半でもう少し英語を話せるようになり、今まで以上にアメリカの生活を楽しく、学びのあるものにしていこうと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）

経営学部経営学科 3年

【語学プラス交換留学】 留学期間：2024年4月～2024年12月



私がカナダに来て7か月が経とうとしています。日本では感じるできない感情、日本では得ることのできない経験をここに来てからたくさんしています。私は語学プラス交換留学なので最初の4か月間は語学学校で勉強していました。この期間は、周りのほとんどが日本人留学生だったので英語を話す機会をどう作るかがとても難しかったです。私の

場合、ホームステイのルームメイトがメキシコ人の女の子だったので、土日や学校終わりは一緒に行動し、英語を話す機会をたくさん作っていたと思います。寮に入ってから、周りはほとんど日本人留学生だったので英語を話す機会が少なかったのですが、他のプログラムに参加していた韓国人の友達をたくさん作り英語を話す環境を自分から作りました。この語学学校の期間は私にとってとても意味のある時間でしたし、たくさんのインターナショナルな友達を作ることができました。語学学校の友達は全員帰ってしまいましたが、今でも連絡を取り合ったりしていますし、日本に帰ってから会う約束もしているくらい濃い関係を作ることができました。



語学学校が8月で終了し、9月からはビクトリア大学で専門科目を学んでいます。授業が始まってから約1か月が経ち少しずつ新しい環境に慣れてきている途中です。学校が始まった当初は、課題の多さと急にレベルの上昇した授業、新しい環境にすぐ慣れることができず気持ちをコントロールするのが難しかったです。今では自分なりに一生懸命一日一日を大切に生きています。無理に他人の基準に合わせようとせず、自分のペースで一生懸命に毎日を過ごすことが大切というのもこの留学で学びました。まだ私のカナダ生活は全て終わっていませんが、今まででもたくさんの貴重な経験ができており、一つ一つの経験が大切に意味のあるものばかりです。それらは全て私のこれからの人生に活かせるものばかりだなと感じました。そして、この留学を通して、家族や私の周りの方の大切さをとても感じることができました。私は、私の周りの方に支えられてここに来ることができたのだと改めて強く感じました。残りの約2か月は悔いなく今以上に人として成長できるように毎日を大切に一生懸命過ごしていきたいと思っています。



ビクトリア大学（カナダ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2024年12月

私は2024年8月からカナダのブリティッシュコロンビア州にあるビクトリア大学で交換留学をしています。今回は私がビクトリア大学への留学を決めた理由と実際にカナダの大学で1ヶ月学んでみて感じたことを共有したいと思います。



【留学に興味を持ったきっかけ】

私が留学を志したのは大学2年生の春にフィールドワークでフィリピンを訪れた際の経験がきっかけです。初めての海外で貧富の差を目の当たりにしストリートチルドレンや物乞いの存在に大きな衝撃を受けました。公共施設に散乱するゴミの山やバイクの排気ガスなど環境破壊の実態を肌で感じたことで、環境汚染や貧困というテーマに関心を持ち始めました。そして、大学で力を入れて学んでいた英語を使い、海外の大学でこれらの分野を専門的に学びたいという気持ちが強くなり交換留学を決意しました。



【ビクトリア大学に決めた理由】

留学先を選ぶ際は、留学費用と私が学びたかった環境学が学べることを条件に留学先を絞っていきました。ビクトリア大学はカナダの大学の中でも特に環境学の分野で評価が高く学内の取り組みや設備も環境に配慮したものであることが、留学を決める大きな要因となりました。また私は自然に囲まれた環境で育ったため都会の生活よりも島での穏やかな生活のほうが自分のライフスタイルに合っていると考えビクトリアを選びました。

【参加したプログラムについて】

私が参加している交換留学プログラムでは現地の大学生と同様にビクトリア大学の授業を受講できます。私はIELTSのスコアが基準に達していなかったため9月に始まる秋学期の1ヶ月前にビクトリアに到着し大学の敷地内にあるELC(English Learning Center)で3週間の語学プログラムを受講しました。語学学校では英語のライティングとスピーキングのテスト結果に基づき10～20人の少人数クラスにレベル分けされ英語の4技能を中心に学びました。

ELCの特徴として様々な国からの学生と一緒に授業を受けることが挙げられます。特にアジア（日本、韓国、中国）からの学生が多く他にもペルーやメキシコ、スペインから

参加している学生もいました。ディスカッションやプレゼンテーションなどグループワークも頻繁に行われ異なる言語や文化を学びながら世界の様々な国の友達を作ることができました。

3週間のプログラム終了後ビクトリア大学での学生生活が始まりました。日本の大学とは大きく異なり平日の朝から夜まで図書館が常に満席で学生たちは学業に全力で取り組んでいます。新学期が始まった直後は毎日のように新入生向けのオリエンテーションが行われており高校を卒業したばかりの17歳や18歳の学生たちと一緒に学部説明のオリエンテーションを受けたときはとても新鮮な気持ちになりました。現在私は社会科学部で環境学、言語学、フランス語の授業を受講しています。課題に追われる日々ですが英語で自分の興味のある分野について学ぶことが非常に楽しいです。



【最後に】

留学を希望していても費用の面で諦めてしまう学生も多いかもしれません。しかし学内外の奨学金制度を活用するという選択肢もあります。まずは国際交流センターに相談してみるのはいかがでしょうか。最後までお読みいただきありがとうございます。私の経験が皆さんの参考になれば幸いです。

カールトン大学（カナダ）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2024年12月

カナダに到着してから1ヶ月と数日が経ちました。カナダの南東部に位置するオタワで日本人を見かけることはほとんどなく、少数派だということを実感しながら新鮮な毎日を送っています。また、オタワは首都ながらも都会ではなく、近くの繁華街までバスで20分かかると、周りには広大な自然が多く、日本での生活が息苦しかった僕にはとても良い環境だと感じます。治安はかなり良く、目が合うと微笑んでくれたり道を譲る前にお礼を言われたりと、カナダ人の優しさに日々感銘を受けています。また、幸いルームメイトにも恵まれ、ルームメイトが到着した際、寝具もなく時差ボケで眠り続ける僕に気を遣って静かに荷解きをし、僕の目が覚めると「シーツとか延長コードとか、あなたが持ってなさそうな物全部買っておいたから！」と、全て枕元に置いてくれていたり、初日から泣きそうになりました。今に至るまで、毎日朝ごはんを一緒に食べたり買い物に出かけたりと、良好な関係を続けられているのがとても嬉しいです。



8月の末に留学生専用オリエンテーションがあり、9月から授業が始まりました。with ESLA なので週二回、英語が母国語ではない留学生のみの少人数英語クラス、それと Sociology と Environment Studies の専門科目2つを履修学習しています。専門科目2つは他の教科に比べて課題などは少ないですが、たまに課題としてミニ論文の提出があり、CUBEで体験したことのない量の英文を読む・書く・引用する作業がとても大変です。僕以上にこちらの学生、特に理系の学生たちは毎日24時を過ぎるまで図書館にいたりとその勉強量に驚かされ、刺激を受けています。

最近では日本語会話ボランティアに参加して交流してみたり、持参したトランペットを持って音楽クラブに入って練習してみたり、思い切って一人で隣の州へアイスホッケーを観戦しに小旅行してみたり、積極的に時間を使うようにしています。思っていたより英語が伝わるなという実感と、言いたいことを全部言えないもどかしさは大いにありますが、残された数ヶ月、有意義に過ごせるようにしようと思います。

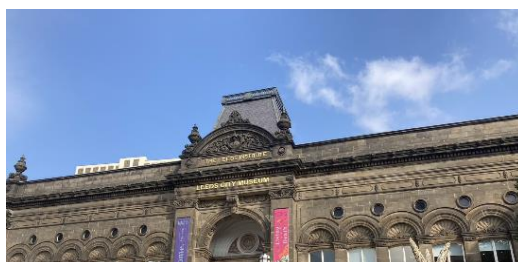


リーズ大学（イギリス）

人文科学研究科英語英米文学専攻 2年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年1月

イギリスに到着してから約3週間が過ぎようとしています。現在10月初旬ですが最高気温が10度前後で、天候は曇りや雨が多いです。道路を歩いていると落ち葉や松ぼっくりがたくさんあってすっかり秋を感じられます。この中間報告では学校生活と寮生活の主に2点をまとめて記します。



まず学校生活についてですが、私は歴史学の授業を2つ、社会学の授業を1つ履修しています。1つの授業につき週にレクチャーとセミナーの2コマが入っています。レクチャーでは講義を聞き、セミナーでは学生たちとディスカッションをしていきます。甲南大学の授業形式と違うので、ここでセミナーについて少し詳しく触れたいと思います。私が受けている授業はMy KONANの様なホームページに各週課された本の章、論文とディスカッションテーマが載っています。セミナーではそれらについて話し合っていくので予習が欠かせません。現在の課題点としては現地の学生たちの話すスピードが速いので理解できるようになる事と、準備してきた回答だけでなく、その場で出た質問に答えられるようになる事です。



寮生活ではフラットメイトの3人と暮らしています。カナダ、スウェーデン、スロヴァキア出身の人達でいつも優しく接してくれています。先日フラットメイトの子が誕生日だったのでケーキを一緒に食べてお祝いしました。普段からもキッチンで今日の出来事などについて話したりしています。またWhatsAppというチャットアプリを使ってイベントに一緒に参加しないかと誘ったり、キッチンやトイレを次からはこうして使ってほしいなど情報共有をしたりしています。課題点としては自分が言いたいことが上手く表現できない事が多々あるので、もどかしさを感じています。フラットメイトとより深く交流していくためにももっとスピーキング力を上げていきたいです。

学期が始まる前は時間に余裕があり街を散策したりしていましたが、授業が始まると1週間過ぎるのがとても早く感じました。上記で挙げたように現地の留学生や他の交換留学生とコミュニケーションを取りたいが上手く取れないなど日本でも抱えていた自身の短所がより浮き彫りになって現れてきます。しかしこの焦燥感をバネにして少しは自己成長できたなと思えるように勇気を持って様々なことにトライしていきたいです。



リーズ大学（イギリス）

人文科学研究科英語英米文学専攻 1年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年6月

こちらに来て2週間ほどが経ち、生活にも慣れてきました。ここでは①友人関係、②授業の2つに分けて書きたいと思います。

①友人関係

人間関係の築き方において重要なことを改めて学びました。それは相手に興味を持ち、自分にも興味を持ってもらうということです。とても基本的なことですが、どうしても英語を話すことに精一杯になってしまい、初めは話せたことで満足してしまいました。会話で最も大切な「相手に興味を持つ」という基本的なことを忘れていました。気になることはどんどん質問し、分からなかったら遠慮なく聞くということが重要だと感じました。まだ時々分かったふりをしてしまう時があるので、どうすればその場の空気を壊すことなく上手く聞き返せるのか、模索中です。また、自分に興味を持ってもらうことも大切です。私の場合聞き取った内容を理解することで手一杯になってしまい、自分のことについて話すことが出来ておらず、どういう人なのか知ってもらう機会を逃していました。しかし自分のことを話すようになると、その後も会話が続き一緒にお出かけする仲になりました。基本の中の基本ですが、英語になると自信がないせいか、どうしても「コミュニケーション」ができなくなってしまい、ただ聞くだけ・話すだけになってしまう傾向にあります。まだまだコミュニケーションになっていない瞬間があるので、その点に気をつけつつオープンマインドで新しい関係も築けるといいなと思います。

② 授業

私は英文学の授業を履修しており、レクチャーとセミナーの2種類あります。レクチャーであっても早口の先生はいるので、予習は欠かせません。私が衝撃を受けたのはセミナーです。海外の学生は日本人よりも発言すると聞いていましたが、みんなが我先にと挙手します。恥ずかしいのですが私の現状を正直に書くならば、全くディスカッションに参加できていません。もちろん予習はしていき、答えも用意していきますが、ついていけないのです。話し合いになった途端、制限時間もあるためみんな普段より早口で話します。ネイティブの会話には正直ついていけません。そして、日本であれば会話に参加していない人にも話題をふると思います。しかし、セミナーでは違いました。考えていない人として扱われてしまいます。特に話は回ってこないの、自分で会話に入るしかありません。「待ち」の姿勢ではいけないと反省しました。こんなにもディスカッションに参加できないものか…と落ち込みましたが、来週は最低でも一言は話せるように頑張りたいです。また、日本にいる時に使用したリスニング資料は聞きやすいものばかりだったと反省しました。良いスタートを切るにはこちらに来る前はかなり勉強すべきだったと思いました。やったつもりではダメですね…。これからリスニング力、語彙力、スピーキング力を中心に学習を積み重ねようと思います。1semesterが終わる前に会話



の中心になれるように努力し続けます。最後に私のお気に入りスポットである図書館、キャンパスで見つけたウサギの写真を載せておきます。

リーズ大学（イギリス）

経済学部経済学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年6月

【リーズ大学に留学したきっかけ】

僕は、中学2年生の頃に、イギリスのウェリントンという学校に2週間のサマースクールに参加したことがきっかけで、将来はイギリスの大学院に行きたいと考えていました。そして甲南大学にリーズ大学への交換留学の制度がある事を知り、大学在籍中に、イギリス留学をして様々な科目を履修することで、自分が本当に追求したい分野を見つけ、また様々な経験を通して人間として成長したいと考えました。



【留学中に感じること】

僕は、日本にいた時には何か上手く表現できない心地悪さを感じることがありました。しかし、イギリスに来てから、自分が自分らしくいられるように感じています。もちろん、日本とは、生活環境も、使われている言語も全く異なる場所で、大変だなと感じることは多々ありますが、自分の個性を思う存分に全面的に出し、出会った人たちと積極的に交流することで、自分のアイデンティティが確立されていくのではないかと考えています。また、イギリスについてから10日ほどですが、自分が自覚している以上に様々なことを経験していると思います。例を挙げると、授業が始まる前に、エジンバラ大学の見学のためのエジンバラへ旅行に行った際に、中世を感じる街並みやその雰囲気圧倒され、改めて世界は広く自分が知らない世界はたくさんあるのだなと考えることができました。また、日本の大学と違い、基本的にほとんどの授業でセミナーがあるのですが、他の学生たちが意欲的に発言している姿に感銘を受けるのと同時に、素直にその空間の中で共に授業を受けることができているのがとても嬉しく感じました。留学生活はまだまだこれからですが、授業において、積極的に自分の意見を伝えることを僕も心掛けていきたいと思っています。



【留学前にしておくこと】

これは、あくまで僕個人の意見ですが、留学を通して英語力が伸びるのかという点については、僕はあまりそう思いません。英語力は、日本でも存分に伸ばすことができると考えています。特に、交換留学などのアカデミックな留学を考えている学生さんは、英語はもちろんになるのですが、僕は、自分が学ぼうと考えている分野の本を読むことを強くお勧めします。本を読むことによって様々な知識が得られ、ディスカッションをする際にも、自信を持って発言することができるからです。実際に、本を読んでいたおかげで、社会学の初回の授業で、履修理由を聞かれた際に自分の中にある問題意識を言うことができました。留学をするにあたっての準備はとても大変ですが、僕は時間が少しでもあるのであれば本を読むことを強くオススメしたいと思っています。



リーズ大学（イギリス）

経済学部経済学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年1月

世界中の誰もが知っている物語「ハリーポッター」を見て、読んで育った私は、イギリスへの留学を夢見るようになりました。そんな夢を何とか叶え、いざ渡英してから半月が経ちました。初めての海外、初めての寮生活ということもあり、全く違う環境に適応するのは大変ではないかと思っていました。そんな心配とは裏腹に、実際はすんなりと適応することができ、割と快適に過ごしています。もちろん、まだ慣れないことも多く、大学の講義に行く際は毎回のように迷子になりながら何とか教室にたどり着いています。

【苦労していること】

一番苦労しているのは、自分の英語力の低さです。講義の英語は難しいどころではないくらいに難しく、予習と復習を必死に繰り返しています。まず言葉の意味を調べることから始め、理解できない箇所があれば日本語でも調べて地道に理解を深めています。また、日常会話でも毎日つまずいており、こんなにも自分は英語ができないのかと自身に落胆する日々です。ずっと落ち込んでいても仕方がないので、地道に語彙を増やしたり、会話を振り返ったりと自分にできることを繰り返しています。また、どれだけ拙い英語であっても積極的に話すように心がけています。言葉だけで伝わらなければ身振り手振りを交えて、とにかく会話を楽しむようにしています。

【寮生活】

留学を考えている方々の中で、寮生活に不安を抱いている方も少なくないと思います。しかし私個人としては、そこまで深刻に考える必要はないのではないかなと思います。私の寮のメンバーは全員違う国出身で、価値観や習慣は異なるはずなのですが、今のところすれ違いを感じることはあまりありません。恐らく、全員がそれぞれにリスペクトを持ち、迷惑にならないように心がけているからだと思います。また、何か不満があればチャットで話し合い、平和的に解決しています。イギリスに来て、驚いたといえば失礼に当たるかもしれませんが、案外良い人たちばかりだなと感じています。もちろん、同じ大学の学生と暮らし、キャンパス街に住んでいるからかもしれませんが、困っていたら知らない人でも助けてくれるような温かい方ばかりです。

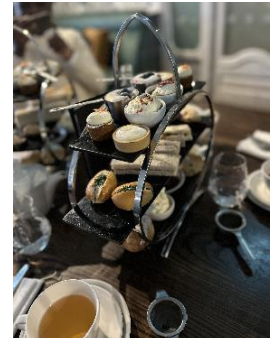
「人は鏡」です。自分が誠意を持って接していれば、相手も誠意を持って接してくれるはずです。もちろん例外もありますし、自分が嫌なことはしっかりと相手に伝えることも大切です。自分を大切にできてこそ、他人も大切にできると思います。



寮のメンバーとの写真です。
日本のギャルピースを世界に広めてきました。



イギリスに来て約2週間ですが、
既に本場のアフタヌーンティーに2回も行きました。



リヨン第三大学（フランス）

文学部英語英米文学科 3年

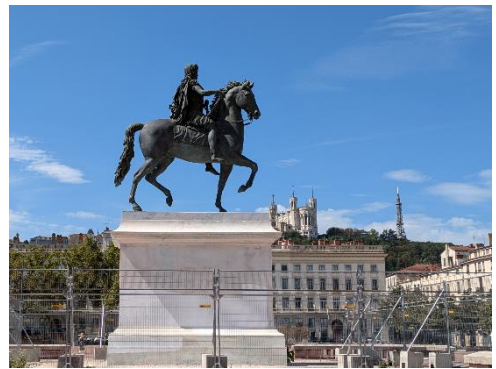
【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年1月



フランスに来てから1か月半が経ちました。最初の1週間は留学生だけのオリエンテーション期間で、フランス語の授業やリヨン巡りのイベントがありました。フランス語の授業は、一部の学部ではCEFR B2の語学力が必要とされるためレベルが高く、ついていくのに精一杯でした。海外の留学生は中学校からフランス語を勉強し始める人も多く、流暢な会話があちらこちらから聞こえてきて驚きました。そんな中でも日本の漫画が好きな子と話が合い、盛り上がり仲良くなれた時はとても嬉しかったです。日本人の留学生が多いことも驚きで、フランス語を学ぶ仲間が沢山できて心強いです。

9月から大学の授業が始まり、留学生必修の授業のほかに英語、日本語、文学の授業に行っています。フランス語の授業は、レベル分けテストで決まった自分に合ったクラスを受講しています。フランス文化の授業では歴史やメディアなど毎回のテーマが興味深く、また先生がリヨンで開催されるイベントも紹介してくれます。フランス語での授業は難しいですが、学習内容だけでなく知らなかった語彙を知ることができ、学べることが沢山あります。授業の様子は甲南大学で受講したJapan Studiesと同じように、質問があれば手を挙げて聞く学生が多くいます。

フランスでの生活は、日本との違いが沢山ありとても興味深いです。街を歩いていると、建築様式が異なることはもちろん、自動車用の信号機の位置が低いことや多くの車が路上駐車されていることに気づきます。ホストファミリーとの生活では、フランスの一般家庭の暮らしを知ることができます。夕食前に一緒に見るニュースの時間、家庭料理や食事の様子、環境への配慮などです。普段の生活や観光を通して、リヨンやフランスの歴史、食べ物、文化、そして様々な語彙を学ぶことができます。また手続きの際や町の中で私がフランス語を理解できないとき、英語を話してくれる人が多いことには驚きます。



フランスでの暮らしに慣れてきたころですが、当たり前だと思わず注意を向ければ新たな発見がまだまだ沢山あります。また21kmのマラソン大会など、様々なことに挑戦する他の留学生からいつも刺激を受けています。私も語学力向上はもちろん、好奇心を持って多くのことに挑戦し、残りの留学生生活をより充実させたいと思います。

漢陽大学（韓国）

経済学部経済学科 4年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2024年12月

韓国に来てから1か月半ほど経ちました。街の雰囲気はパッと見ると日本ととても似ているように感じますが、生活している中でカフェ文化や人々の雰囲気からちょっとした文化の違いを感じながら生活しています。初めの1、2週間は慣れない言語のなかでの生活に不安を感じながら、履修登録の変更が必要になったり外国人登録証の申し込みが上手くいかなかったりと問題だらけの留学の始まりでした。また、様々な国から留学生が来ているためオリエンテーションやサポートもすべて英語で行われ、また韓国語を全く話せない留学生も多く頼れる人を見つけることが出来ず心が折れそうになり、英語力を身に付けてきておくべきだったと過去の自分を後悔しました。

授業は、平日毎日9時から13時までの韓国語の授業と、午後から専門科目の授業がある日もあります。私は専門科目として韓国語の文法とマーケティングの授業を選択しています。韓国語の授業は日本人や中国人が多いかなと考えていましたが、アメリカやフランス、イタリア、インドネシアなど多国籍なクラスで韓国以外にも様々な国の文化を知ることが出来て楽しい毎日です。日本で韓国語を学ぶのとは違って多国籍クラスで学ぶことで、ネイティブ以外の他国の方の発音を聞くことは良い勉強になると感じています。

ここまで1か月ほど韓国で暮らして感じたことは、生活する中で韓国人と話す機会が意外と少ないということです。韓国語の授業も専門科目も主に先生の授業を聞いているだけなので自分が韓国語を発言する機会が少ないと感じました。そのため私は2つのサークルに入会しました。サークルではもちろん韓国人がほとんどなため、受け入れてもらえるか上手く馴染めるか不安でしたが、みんなとても優しく私の間違った韓国語も指摘してくれたりとても素敵な環境で、サークルに入会してよかったなと感じています。実際に韓国語を使う機会が増え、韓国人の同世代の友達を作ることもできました。

まだまだ留学生活は始まったばかりですが、もうすでに残り4か月となっているため、時間を無駄にせずに韓国語を話す機会を逃さず残りの時間も新しいことに挑戦したいです。



東義大学（韓国）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2024年12月



8月末から1ヶ月半韓国で過ごし、学んだことは「人との出会いを大切にする」ということです。1ヶ月半の留学生活で、私は多くの方に助けていただき、その方々のおかげでここまでの留学生生活を充実したものにできました。その中でも同じ目標に向かって頑張る日本人の2人の友人ができたことが私の留学生生活をより充実させてくれています。私は韓国語を問題なく話せるようになることを目標としており、この留学が会話練習をする絶好の機会だと考えていました。

しかし、留学初日、日本人の多さに愕然としました。日本人留学生は日本人同士で行動を共にしなければならない場合が多く、一日中日本語が聞こえる環境で、語学堂の授業が開講されるまで、とても苦しい時間を過ごしました。しかし、そんな私を救ってくれたのも日本人でした。その友人達も私と同じように、日本人しかいない環境に思う部分があり、環境を変えたいと思っていました。その思いを知ってからは日本人同士ですが韓国語で会話するようにしたり、その友人達は内向的な私を韓国人のいるコミュニティにたくさん連れて行ってってくれました。そこからは韓国人の友人もたくさんでき、韓国語だけが聞こえる環境が当たり前になりました。最初は、日本人のコミュニティから外れて、他国の学生のコミュニティに入ろうかとも考えました。しかし、日本人だからといって縁を切らずにいたことが良い結果になり、全ての出会いに意味があるということを知ってくれました。異国の地での、母国の人との出会いは慣れない海外生活に大きな安心感を与えてくれています。

最近、留学生の交流会にて出会った韓国人の友人と頻りに夕飯を食べたりし、交流が続いています。そこで、生の韓国語を聞き会話することで、教科書の韓国語ではなく、生きた韓国語を知り、身につけられると期待しています。

PHOTOGRAY



PHOTOGRAY



PHOTOGRAY



また、その日本人の友人だけではなく、出会った韓国人の友人たちも辿々しい私の韓国語にも真摯に耳を傾けてくれる、優しい友人ばかりです。このように、韓国語だけが聞こえる環境の中で信頼できる友人と楽しく有意義な留学生活を送っています。これからも周りの方々に感謝しながら残りの留学生活も自分の目標に向かって頑張ります。

北京郵電大学（中国）

文学部日本語日本学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年8月～2025年1月

私が留学を決意した理由は、続けている中国語の勉強の通過点として少しでも中国語を話せるようになりたいと考えたからです。これまで留学はしないつもりでしたが、甲南大学に入学してから中国人の友人ができ、彼らとコミュニケーションを交わしていくうちに気持ちが変わり、留学したいと強く思うようになりました。



中国では留学生用の寮に住み、平日は毎日授業があります。宿題は少し多めに授業毎に出され、小テストも定期的にあります。他の留学生や先生方と話すときも中国語ですので、何もしておらずとも最低限の会話はできるようになりました。不安は多々ありましたが、生活に関しては三日ほどで慣れ始め何不自由なく過ごすことが出来るようになりました。



同じクラスには明るくて優しい方が多く、彼らは私と仲良くしてくれます。また、留学生の中にはブラジル国籍の中国人で中国語を母国語とする方もおり、その方とコミュニケーションをとる機会を得ることが出来ました。その他、ルームメイトの中国人の友人や中国語しか話さないと決めた日本人の友人と出かけたり、私の中国人の友人と北京市内を観光したりもしました。中国の祝日である中秋節と国慶節を過ごす際には、中国の文化を友人から聞いたり実際に見たりして知ることが出来ました。万里の長城や北京にある古い路地「胡同」巡りをしたり、頤和園を散歩したりと様々な場所へ行き、そこで友人と楽しい時間を過ごしました。国慶節中に大学の付近で一般の方が中国伝統の緩やかな踊りをされていたため、私も混じって踊りました。とても優しい方でした。楽しかったです。

中国に来た最初から幸せを感じ、小さな思い出や大きな思い出が毎日のように積もり続けています。そして毎日のように留学にきてよかったと強く感じます。残り約3ヶ月間も多く中国語でコミュニケーションを取り、成長できるように一日一日を大切にしていきたいと思います。



写真：万里の頂上、胡同、運動場、博物館、食堂のご飯

厦門大学（中国）

経営学部経営学科 3年

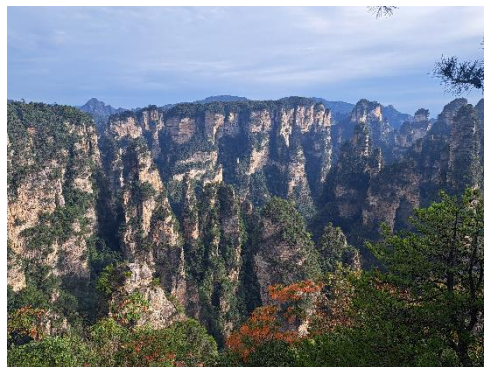
【交換留学】留学期間：2024年2月～2025年1月



半年が過ぎ、留学生活に慣れてきました。目まぐるしく過ぎる毎日を有意義に過ごすために、しっかりと楽しんでいきます。残り半年も積極的に何事にも挑戦することを目標に取り組みます。

9月2日に今学期が始まりました。前学期から留学を始めた日本人が自分一人のため、より多くの不安と期待それぞれを抱いていました。前学期に、上のレベルの選択科目を履修したことにより、2つレベルの上だったクラスに配属されました。そのため、授業の難易度は上がりましたが、日々成長を感じています。また、クラスのレベルが大きく上がった二つの専門科目を履修しています。とても難しいですが、内容は中国の文化や中国の海外との交流の歴史など興味深いものばかりなので、しっかりと学んでいます。今学期からの留学生の案内をすることで、前学期からの友人を含め、多くの新入生と仲良くなることができました。国庆节と呼ばれる建国記念日の祝日が一週間ほどあり、张家界という場所に行きました。そこでは、日本では考えられない人の多さと長い行列の待ち時間を経験しました。もちろん景色も素晴らしいものでしたが、人の多さを特に感じることができました。また、現地の中国人と話す機会が多くあり、中国に来たばかりの頃からの成長を大きく感じ、自信やモチベーションにつながりました。この調子で頑張ります。

私が留学中の今、大切だと考えていることは、毎日を大事に過ごすことです。何事にも全力で取り組み、積極的に行動することです。中国で半年を過ごして特に感じたことは、時間が過ぎるのがとても速いことです。今日しようとしたことは今日しなければ、残りの日数がすぐに減っていきます。また、自分から行動しなければ何も変わらないので、勉強はもちろんですが、現地の人との交流の機会をより多く作っていきたいです。あと少しの留学生活、悔いの残らぬよう全力で過ごしたいと思います。



厦門大学（中国）

経済学部経済学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年1月

中国人である私が、中国に留学することに疑問を持つ方が多いかもしれません。そのことで最初、私も少し悩みました。一般的な中国人留学生とは違い、私は中学校からずっと日本に住んでいました。大学卒業後は中国に帰るか、もしくは日本で就職するかよく聞かれます。百聞は一見に如かずということわざがありますが、その通りだと思います。コロナの影響で、今の中国の就職環境はどうなっているかを知るために中国留学を決意しました。また、厦門がある福建省は現在、中国経済の中心地であり、中国経済の今を知る大チャンスだと思います。



私は中国人ですが中国南部に住むのは初めてなので、最初は少し慣れなかったです。厦門大学に来て3日目で急性腸炎になり病院に行きました。その後、治りましたが中国人でも、方言や飲食の違いから、まるで異国で生活しているように感じます。でも人生はできる限り色々な体験をしないといけないと思います。非常に幸運なことに、甲南大学を通じて厦門の友人と知り合うことができました。彼に地元のたくさんの楽しい場所に連れて行ってもらいました。さらに、彼は厦門で有名なお寺にも連れて行ってくれ、そこで厦門の民俗や風情を存分に体験することができました。もう一つ特別な経験は、これまで体験したことのない寮生活です。二人部屋の寮は、伝統的な中国の寮生活とは少し異なります。しかし、今まで両親のもとを離れて生活したことがなかったため、一人暮らしの大変さを実感しました。



今回の留学には、友達をもっと増やしたいという思いもあります。中国は人脈が生き残るために重要な国だからです。また、以前の同級生を通じて厦門大学に通っている友人とも知り合いました。彼らとの交流の中で、現在の中国の就職環境は高学歴者にとっても非常に厳しいことを感じました。これが、将来中国に戻るためには、修士や博士課程に進むべきかどうかを考えさせられるきっかけとなりました。この1か月間の留学を通じて、過去の失敗を振り返る時間が増えました。人生という旅はこの短い期間だけで決められるものではありません。ただ十分な実力があれば、乗り越えられない困難はないと信じています。

動物園キャンパス



亜熱帯に属する厦門は植生が非常に豊かです。これが動物たちにとって素晴らしい住環境を作り出しています。到着した初日、厦門大学の友人が通りかかったカエルを踏んでしまったのを覚えていますが、これまでに私が見つけた動物は、猫、犬、アフリカマイマイ、リス、カエル、ネズミです。さらには、蛇を目撃した人もいます。

広州旅行



写真を撮って記念にするだけで十分だと思いました。ちなみに、今年の国慶節の期間中、国内での移動人数は延べ 20.03 億人にも達したそうです。ですから、中国を旅行するなら、この時期は避けるのが賢明かもしれませんね。

厦門大学（中国）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年1月



現在、私は中国の厦門大学に交換留学しています。まだ1ヶ月しか経っていませんが、すでに自分の考え方に大きく影響を受けています。大学に入学する前は、日本で何か資格を取って、大学3年生でインターンシップに参加しようと考えていました。しかし、大学生活で何か特別な経験や思い出を作りたいと友人が言っているのを聞き、一緒に厦門大学に留学することにしました。厦門大学を選んだのは、中国で自分の興味のあることを学び、やりたいことをやりたかったからです。また、厦門大学は子供の頃からずっと行きたかった大学だという理由もあります。自分の夢が叶った喜びを感じました。

厦門大学は中国で最も美しい大学と言われています。こちらで勉強していると、とても美しい森林公園にいるような気分になります。あらゆる種類の木々に加え、美しい湖もあります。ここにはいろいろな生き物もいます。通学路でリスや子猫、犬や黒鳥を見かけます。だから厦門大学には観光客も多いです。



私は大学が手配した寮に住んでいます。交換留学の学生たちのための寮はとてもいいです。私は友人と部屋をシェアしています。キッチンがないことを除けば、生活に必要なものはすべて揃っています。また、この寮には専門の設備修理チームがあります。寮の設備に問題があると、報告すればすぐに修理に来てくれます。厦門大学は厦門市の観光地にあるので、自由時には厦門の文化や雰囲気を楽しむことができます。生活するにも遊ぶにもとても快適な町です。

また、私は勉強から多くのものを得ました。例えば、「マクロ経済学」の勉強を通して、社会の経済状況を理解する方法を学びました。これは将来の進路選択に役立つと思います。また、私は「カーボンニュートラル」の授業も履修しています。二酸化炭素排出が世界に与える影響と、将来カーボンニュートラルを達成するための科学的・技術的支援の必要性について学びました。この先生や教授方は一流大学を出ている人ばかりなので、より幅広い知識ベースと考え方を持っています。多角的に考え、問題を解決することを学びました。以上が厦門大学での生活と勉強の経験です。



厦門大学（中国）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年

【交換留学】留学期間：2024年9月～2025年1月

この報告書では厦門大学での生活状況をお伝えしたいと思っています。

この写真は厦門大学の風景の写真です。厦門大学は福建省の有名な観光地です。とても広くて、景色がきれいです。校内では湖や、いろいろな種類の植物と動物が見られます。キャンパスには猫や犬や白鳥がたくさんいます。動物たちに餌を与えたりして過ごす時間はストレス解消にもなっています。厦門大学はとても広く、学生だけでなくキャンパス内にも多くの教授が住んでいます。キャンパス内にコンビニ、KFC、5つの食堂、そしてたくさんの銀行、通信会社などがあり、便利です。さらにはビジターセンターという商店街があります。レストラン、ヘアーサロン、お土産屋さんがたくさんあるため、学校の外に出なくても何でも買うことができます。厦門市は海に囲まれていて、島内と島外二つの部分に分けられています。厦門大学は島内に位置しています。だから学校の近くに海もあります。海辺ではよく人が歌を歌っていたり、たくさんの軽食を売っている店があります。それに校門を出て大通りの反対側は海辺なので私達はいつも夜に散歩します。



また、9月17日は中国の中秋節でした。中国の伝統衣装である漢服を着て中華街を見て回りました。大規模な祭りなのでクイズ、サイコロ振りなどイベントがたくさんあります。このイベントでお茶を2本いただきました。中国の特色を持つ祭りなので、世界各地から来た観光客と出会いました。彼らもその雰囲気にも包まれている様子を見て、国際文化交流の魅力と重要性を感じました。

10月1日は中国の国慶節で1週間ぐらい休みがあったので、友人と一緒に広州に旅行に行きました。広州は国際的な都市だそうです。日本のスローや日本の人気アニメのグッズもあります。街には私が行ったどの都市よりも多くの外国人がいるように感じました。広州は広東料理が中心で中国のミシュランレストランは広東料理が多いです。広東料理はとてもおいしくて地元の人も親切です。楽しかったです。



中国はハイテクのインターネット時代になりました。何をするにも携帯電話を使うだけです。外出には携帯電話を持っていくだけです。他には何も必要ありません。慣れるまでは戸惑いましたが、慣れてくると便利です。

アーダーネータシティ大学（フィリピン）

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 3年

【学部等認定校留学】 留学期間：2024年8月～2024年12月



私は甲南大学内の英語の授業を通して、周囲の同学年のレベルの高さを痛感し、リスニング能力やリーディング能力の向上の重要性を感じました。そんな時、留学経験のある友達や先輩方の話を聞き、留学に関心が湧きました。留学経験のある人たちは他国の文化に触れ、上記の能力を伸ばしているように感じました。また、私は異文化交流に興味があり、留学生や異なるバックグラウンドを持つ人たちとの交流を積極的に行ってきました。

留学当初は現地人の英語に特有のなまりがあり、聞き取ることが難しい場面が多くありました。そこで、周りの使っている英語の性質が自分のものとは違うことに加え、自身のリスニング能力が低いという問題点を理解しました。これらの課題の打開策として、現地の人との対話の機会を設ける努力をしました。会話の速さや、言い返しには未だに手間取ることが多いですが、機会を重ねるごとに発音の特徴や独特な表現があることに気づき、徐々に適応することが出来ました。

留学生活は、日本との文化の違いを体感するきっかけとなりました。特に時間感覚には大きな差があり、現地の人に合わせた生活をする必要があります。授業や集合時間に遅れることが常態化しており、皆それを前提として行動しているため、自分自身もそれに合わせて現地の人たちの感覚を理解しなければならないと考えました。さらに、日本人と比べパーソナルスペースが狭く、人と人の距離感が近く感じました。身体的な距離だけでなく、精神的な距離も同様に密接であり、会話の内容も踏み込んだものが多いところからも日本の文化との差を感じました。



マネジメント創造学部で留学するにあたって、私は3年生後期をお勧めします。2年生前期までは必修の英語の授業があり、基礎的な英語を中心に学ぶことが出来ます。その後、選択科目や研究プロジェクト科目を通じてより応用的な英語の授業を受けることができます。それらを活用して留学の準備をすることが出来るため、3年生以降の留学が、海外の大学でより実践的な学習を行うのに適していると考えます。